

流通BMS導入について

2009年10月23日

よつ葉乳業株式会社
情報センター

会社概要

- 設 立 1967(昭和42)年1月23日
- 資 本 金 31億円
- 売上高 952億2,500万円(08年度実績)
- 代 表 者 代表取締役社長 堀部 一郎
- 事業内容 牛乳・乳製品の製造および販売
- 従業員数 738名(正社員641名 男571名、女70名)
※H21.9現在
- 平均年齢 39.0歳

会社概要

当社の工場

1日当りの処理量 約2,000トン
1ℓ牛乳だけ製造したとして 1日 約193万本分

全国生乳生産 802万4,000トン
当社は全国が生乳生産量の約10%を処理

北海道の生乳生産量 382万8,000トン
当社は北海道の生乳生産量の約20%を処理



よつ葉乳業の企業理念

☆「酪農民の、酪農民による、酪農民のための工場」

☆ 酪農生産者と生活者を結ぶ「架け橋」

社是

「適正乳価の形成」

「酪農経営の長期安定」

→「農系乳業メーカーとしての責任」と「よつ葉ブランドの責任」を果すことを基本理念としております

流通BMS導入

1. お得意先様からの要請

- ・2007年からお得意先様からの流通BMSでの取引依頼が増加
※2009年10月23日現在4社と実施中。近日3社追加予定

2. 時代に見合った規格標準化への期待

- ・社会的責任を果すために必要不可欠な仕組みであると判断(今後は安全・安心に求められる情報量は確実に増加する)

3. 流通BMS導入を想定したシステム基盤の整備

- ・汎用機上で稼動していたEDIシステムの信頼性、拡張性に限界が来たため、2008年にEDIシステムのマイグレーションを実施。処理階層を明確化し、インターフェース増加にプラグインで対応可能なシステム基盤とした。

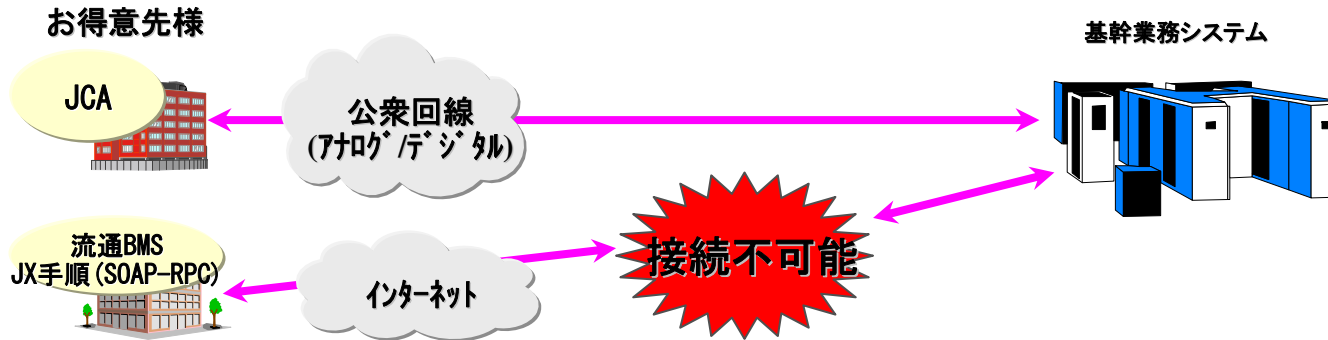


早期導入判断

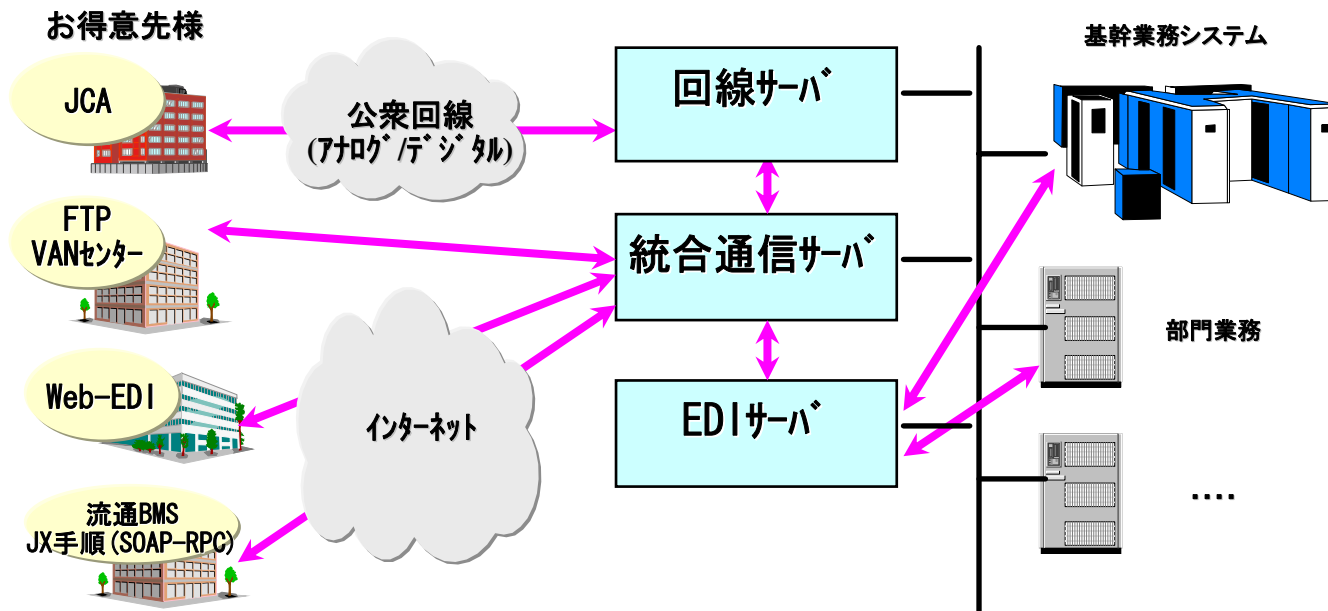
現行システム～流通BMS導入前後～

● システム構成概要

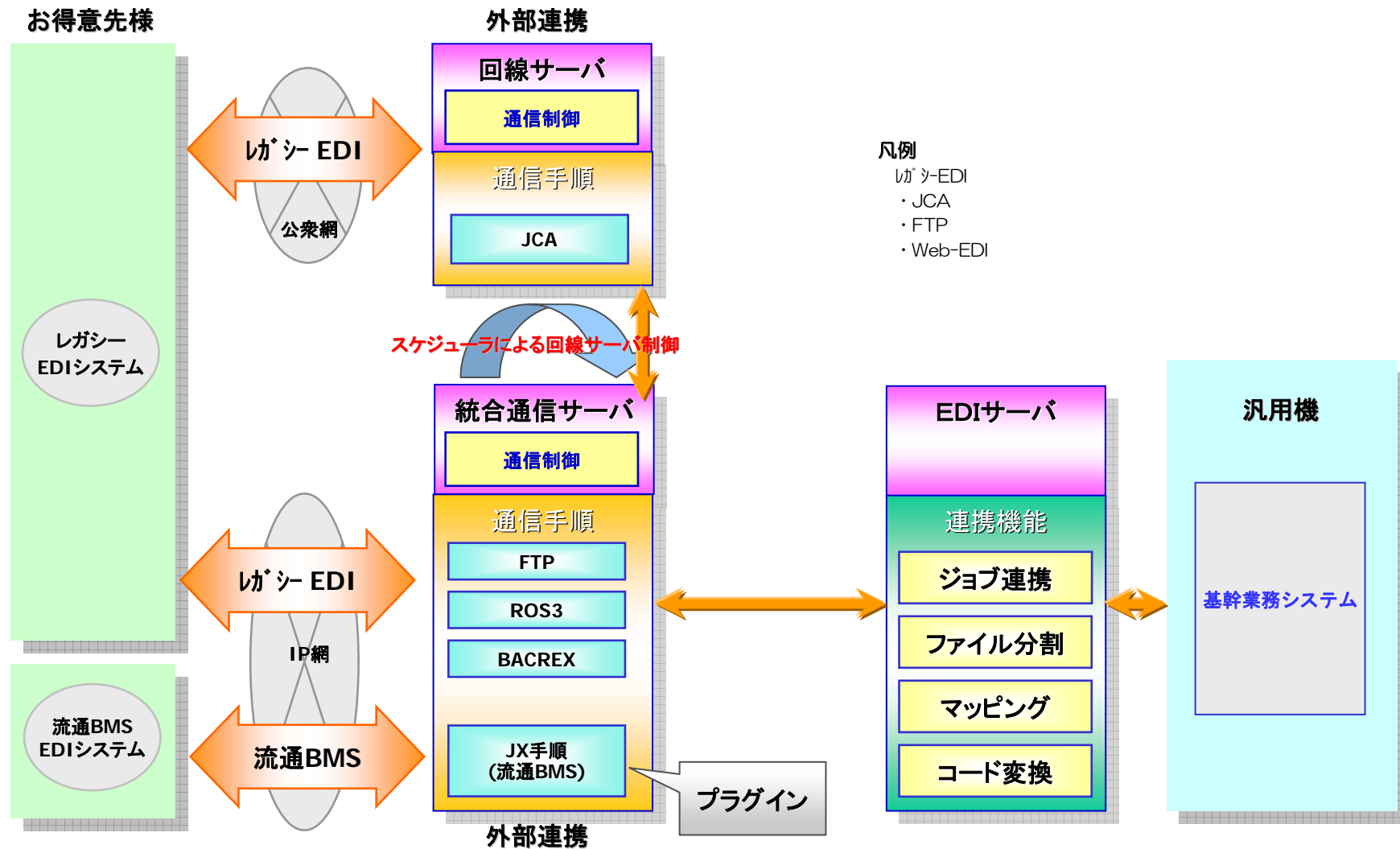
現行システム



新サーバシステム



● 新サーバシステム機能概要



● 目標

・システムベンダーに頼ることなく、自社で容易に追加設定が可能な仕組みを採用し、ランニングコストの低減を図ること

● 導入までの流れ

流通BMS仕様の理解

情報収集。詳しいベンダー探しに苦労

導入方法の検討

サーバ型、クライアント型、ASPなど短所長所洗い出し

基幹システムとの結合

基幹業務系システムへの流通BMS考慮追加

運用手順の整理

従来運用との差異や運用方法の説明

得意先様との協議・テスト

最初の得意先様CGCジャパン様との運用検討・テスト実施

● 仕様の理解

- ・流通システム標準化事業発行の流通ビジネスメッセージ標準「導入ガイドライン」及び「運用ガイドライン」、「XMLテクニカルガイド」を参考とし、仕様理解に励んだがカバーしなければならない範囲がまだ明確でなかったため不明点も多々あった。
- ・当時はまだ流通BMSに対する認知度も低かったが、取引のあるITベンダーが一体となって仕様の解析に取り組んでくれたおかげで早期に必要な機能を絞りこむことができた。

● 導入方法の検討

- ・将来性、取引規模など勘案。当初サーバー方式も検討したが弊社はWebサーバーを所有しておらず、このためだけではコストメリットを出しづらかった。最終的には日配品は基本的に日／1回定時タイミングでのデータ交換となるのでリアルタイム処理に対応したサーバー(ebXML・AS2)方式の必要性は少ないと判断し、クライアントJX手順(SOAP/RPF)方式を選択。

基幹システムとの結合

・導入にあたり以下の課題クリアが必要であった

①レガシー系基幹業務システムと共存を図ること → XMLフォーマットは流通BMSのセールスポイントの1つではあるが固定長が基本である自社基幹システムでは互換性が無い。よってフォーマット変換は必須要件の1つとなった。

②マイグレーションを機に整理した処理階層(処理プロセス)を崩さないこと → 流通BMSを数あるEDIパターンの1つと見なし、既存EDIと同じプロセスで処理することで処理プロセスの標準化を図った(受信→コード変換→マッピング(各種チェック、監視)→コード変換→基幹システム連携→コード変換→送信)

・当時、市販していた流通BMS対応製品は業務システムがカバーする機能まで含めたオールインワンパッケージ製品が多く、弊社が必要とする「送受信」「コード変換」「スケジュール」のみを提供する製品が無かった。

→手詰り感のなか2007年12月、弊社ニーズにマッチした製品が発売となり、課題がクリアできた。現在では同様の製品も複数販売されており、選択肢も広がっている。

流通BMS導入効果

1. 通信時間、コストの削減

- (1)コスト:従量→定額
- (2)時間:約10分の1

2. システム構築作業の負荷軽減

- (1)お得意先様ごとのシステム設定が簡便になった
- (2)JX手順採用により、コストミニマムでの導入ができた

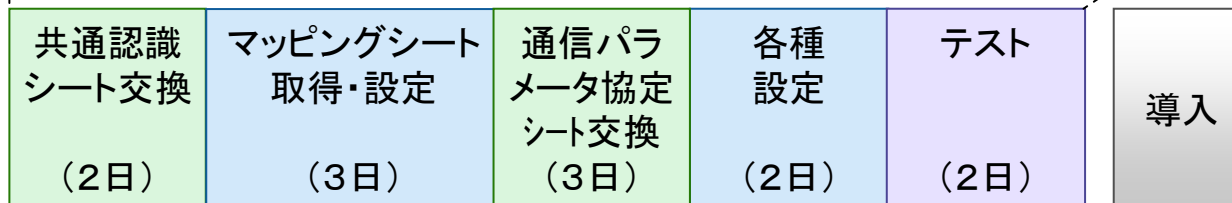
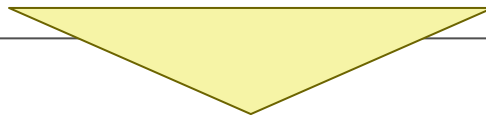
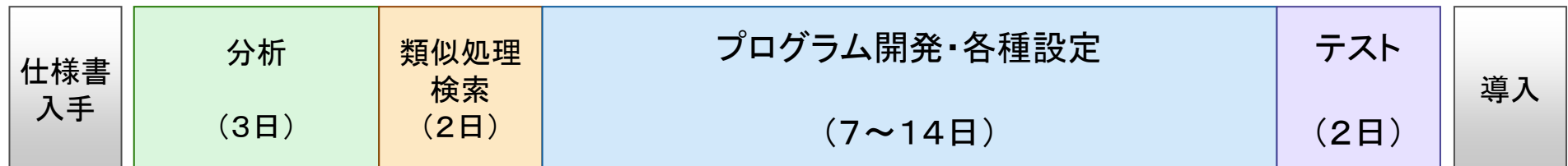
3. 事務作業コストの削減

システム構築作業の負荷軽減

得意先ごとのシステム設定作業の負荷軽減

従来(JCA)









→早くても半月～1ヶ月の準備期間が必要であった



現在(流通BMS)

→半月程度で準備が完了

JX手順クライアントの導入による導入負荷軽減

＜弊社での検討＞	コスト	運用	既存システムとの親和性
サーバ導入 (ebXML/AS2)	 DMZ変更、新たな機器 (Proxy) 導入などが高価。保守料も割増	 現場運用にはほとんど違いがないが、システム管理負荷は大きい	 サーバ経由のため連携は同じ
JX手順クライアント導入	 ネットワーク変更、機器費用など圧倒的に安価		
ASP採用	 サービスにもよるが、数社で始める場合、JX手順より高価になる場合がある	 弊社では運用における若干の制約があった。	 ASP側で吸収するため連携は変わらず

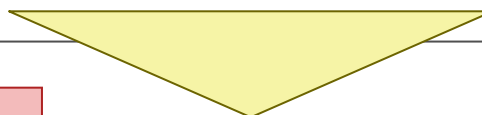
イニシャルコスト、ランニングコストともに想定以下の費用で導入・運用

事務作業コストの削減

流通BMSが与える業務作業コストへの影響

伝票発行を含む従来の事務作業コスト

用紙・印刷コスト					業務コスト		
用紙保管代	用紙代	プリンタ代	プリンタ保守料	トナー代	印刷後仕訳作業	検証作業	受け渡し作業



全EOSが流通BMSに移行した場合

用紙・印刷コスト					業務コスト		
用紙保管代	用紙代	プリンタ代	プリンタ保守料	トナー代	印刷後仕訳作業	検証作業	受け渡し作業

- ・用紙・印刷コスト 約33%削減(用紙約110万枚、ドットプリンタ約20台削減可)
- ・業務コスト 約45%削減(事務作業の大半は印刷物に関わる処理)

→流通BMSが事務作業コスト削減へ与える影響は非常に大きい。(同時にCO2削減も)

弊社の考える流通BMS課題

1. 更なる普及

- ・着実に普及するためには、より明確なメッセージ、ロードマップが必要
- ・商品マスタ運用と対となった普及促進
- ・小売、メーカー卸が一体となって進める必要がある。特に小売業の参加は、メーカー卸にとって非常に重要

2. 敷居の低減

- ・流通BMSを導入する「きっかけ」がなければなかなか導入は進まない。官民上げた「きっかけ」造りが必要なのでは？
- ・「標準化」された仕組みだけでなく、SaaSに代表される「サービスを安価に利用できる」形態の実現が普及のカギとなるのでは？

今後の展開予定

1. 本格普及に向けた体制整備

- ・お得意先様からの要請に迅速に対応できる体制作り

2. 積極的な利用促進

- ・流通BMSの積極的な選択
- ・各種啓蒙活動への参加

ご清聴ありがとうございました